

# 竜の子 奨学生

TATSUNOKO NEWSLETTER

第5号  
Nov 2009

その夢は、きっと世界を変えていく。



第9回交流会（第3回奨学金贈呈式）



第10回交流会 金閣寺にて

## Contents

- |            |                          |             |                         |
|------------|--------------------------|-------------|-------------------------|
| <b>P.2</b> | 一語一会「和顔施（わがんせ）」<br>寄付者名簿 | <b>P.9</b>  | Special Report          |
| <b>P.3</b> | 平成21年度上半期活動報告            | <b>P.10</b> | 奨学生からのメッセージ             |
| <b>P.4</b> | 第9回交流会レポート<br>(贈呈式・祝賀会)  | <b>P.13</b> | 竜の子近況報告                 |
| <b>P.6</b> | 第10回交流会レポート<br>(京都旅行)    | <b>P.15</b> | 寄付者の紹介<br>最初の評議員の選任について |
|            |                          | <b>P.16</b> | 編集後記                    |

財団法人 **秋元国際奨学財団**

## 「和顔施（わがんせ）」

近年、日本ではアメリカ的な価値観がグローバルスタンダードであると考えられていますが、世界にはさまざまな文化があり、一つの価値観で全てを捉えることは不可能です。私は、異文化に接した時、まず自分とは違う点を認め、お互いの共通点を見つけ、尊重し、協働に努めながら「日本の心」をいかに相手に伝えていくかを考えます。このような姿勢は、日本が近隣諸国と共に栄えていくために、大切なことではないかと思っています。

私自身は、これまでの人生を振り返る時に、3つのステージに区切って捉えています。第1のステージは、柔道選手として活躍した時期で、勝利することを追い求めていました。第2のステージは、選手を引退し、指導者として学んだ時期です。そして現在は第3のステージです。

ところで、第3のステージに入った2003年に、国際柔道連盟の教育コーチング理事に就任しました。当初、理事として「一番やりたい事は何か？」と、自分に問うた時、もちろん柔道を世界に普及する事は大事なことでしたし、そのほかにも目指すことはたくさんありましたが、何よりも柔道を通して「日本の心」を世界に伝えたいと思いました。柔道は言葉の壁を越え、文化や宗教、さらに人種を超えて人間としてお互いの心と心の交流ができる、まさに「日本の心」を伝えられるスポーツだと思うのです。

柔道の創始者・嘉納治五郎師範は「自他共栄」という理念を示されました。簡単に説明すると、自分の持っているエネルギーを価値あることに使い、自分も他人もお互いに栄えよう、と言う意味です。この理念は日本と世界をつなぐ架け橋であると信じています。

そこで私は、柔道というスポーツを通じて、「柔道の心、日本の心」を世界の人たちにもっと理解してもらいたいと考え、2006年に特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティーを設立しました。これからもこの活動を通して世界にたくさんの仲間を作り、友情を育み、平和な世界を目指すことを理念として掲げ、日本のことをより深く、正しく理解してもらうことを目指し、柔道を広めて行きたいと思っています。

話は変わりますが、仏教の経典に「和顔施」と言う言葉があります。和顔施とは優しいまなざしで、相手と接することをいい、その温かい心は、自らの目を通して相手に伝わるという教えです。

私は竜の子奨学生の方々と接するたびに、この言葉を思い浮かべます。皆さんの優しい眼差しが私の心に飛び込んできて、自然と笑顔になるのです。優しい心と笑顔は友情を築き、友情は平和な世界を築くと思います。

限られた時間を日本で過ごす皆さんですが、是非この時期に皆さんの和顔施でたくさんの仲間を作り、夢を探し、そして自国へ帰っても夢への挑戦を続けてください。



評議員 やました やすひろ 山下 泰裕

柔道八段、東海大学体育学部長、認定NPO法人柔道教育ソリダリティー理事長、神奈川県体育協会会長  
昭和32年6月 熊本県上益城郡矢部町出身。  
ロスアンゼルスオリンピック無差別級金メダリスト、同年に国民栄誉賞を受賞。  
現役時代のその圧倒的な強さから「史上最強の柔道家」とする声は多く、1985年に203連勝にて現役を引退。

### 「一語一会について」

竜の子奨学生にとって、財団関係者からの励ましの言葉は、大変貴重なものです。そして、竜の子奨学生には、その言葉は一生に一度の出会いであると心得て、そこから多くのことを学んでほしいという願いを込めて、このコーナーを「一語一会」と名付けました。

### 寄付者名簿

泉 毅 様（株式会社マッチング・ナビ 代表取締役）  
河本 貞子 様（株式会社アルデプロ 一般株主）  
呂 建萍 様  
秋元 隆弥 様（株式会社サンフィール 代表取締役社長）  
加藤 照美 様（株式会社メイプルリビングサービス 代表取締役）

### ご寄付いただいた皆さまへ

この度は、私たち竜の子奨学生のためにご寄付をいただき、心より感謝しております。  
皆さまからのご支援は、すぐには形として現れないと思いますが、将来私たち竜の子奨学生は、社会のいろいろな分野で活躍し、国際交流の架け橋として成長していくことでしょう。そして、竜の子奨学生であることを誇りに思うことでしょう。皆さまからのご支援は、きっといろいろな形で世界へと広まっていくと思います。  
私たち竜の子奨学生は、ご寄付いただいた皆さまを見習い、これまで頂いたご恩を、今度は私たちが社会にお返ししていけるように努力したいと思います。現在の竜の子奨学生を初めとして、今後、来日する数多くの海外留学生たちにも引き続きご支援をいただければ幸いです。

（委員長 東京大学大学院 宋 昌錫（ソン チャンソク））

# 平成21年度上半期活動報告

## ●5月23日

第6回理事会・第5回評議員会を開催（於：京王プラザホテル）

- （1）理事長および常務理事の互選について〔理事会のみ〕
- （2）平成20年度事業報告および収支決算について
- （3）特例民法法人の任意の機関としての評議員の任期満了に伴う改選について〔理事会のみ〕
- （4）奨学生選考委員の任期満了に伴う改選について
- （5）定款の変更の案について
- （6）内部諸規程について
- （7）評議員選定委員の選任について

## ●5月23日

第9回交流会開催

（於：京王プラザホテル）

第3回奨学金贈呈式・祝賀会



## ●7月4日～5日

第10回交流会（京都研修旅行）

第1日目 立命館大学にて交流会および国際平和ミュージアムを見学

金閣寺、龍安寺および嵐山を散策

リーガロイヤルホテル京都にて懇親会、宿泊  
八坂神社から祇園・先斗町を通り、河原町  
まで夜の散策



第2日目 銀閣寺、哲学の道を散策

京都大学にて交流会および時計台・図書館を見学  
清水寺を散策



## ●8月5日

第7回理事会・第6回評議員会を開催（於：株式会社アルデプロ本社）

- （1）評議員選定委員会に推薦する最初の評議員候補者の選出について
- （2）「評議員選定委員会運営規則（案）」及び「評議員選定委員の報酬及び費用に関する規程（案）」の承認について

## ●8月26日

評議員選定委員会を開催

（於：新日本アーンストアンドヤング税理士法人会議室）

- （1）最初の評議員の選任について
- （委員会の詳細については、15ページ）

## ●8月28日

会報「竜の子奨学生」第4号編集委員慰労会





## 第9回交流会レポート

### ● 第3回奨学金贈呈式 ●

平成21年5月23日（土）、京王プラザホテルにて第3回贈呈式が開催されました。第3期竜の子奨学生として選ばれた32名の留学生たちを迎え、理事長や選考委員代表から、お祝いの言葉をいただきました。また、奨学生代表として、康アルムさんがスピーチをし、感謝の気持ちを伝えました。

#### 式辞 秋元竜弥理事長

このたび、竜の子奨学生として採用された留学生の皆さん、誠におめでとうございます。皆さんが、竜の子奨学生となったことを心からお祝いし、財団をあげて歓迎いたします。財団が期待していることは、皆さんが奨学金によって安心して学業を継続できるようになり、将来それぞれの専門分野で活躍していただくことだけではありません。竜の子奨学生となった縁で、皆さんが、助け合い、友情をはぐくみ、お互いに相手を理解しようという謙虚な心を持ち、将来もずっと交流を続けていくことで、国や民族という枠にとらわれない国際理解をすることも期待されています。財団のキャッチフレーズにあるとおり、「その夢は、きっと世界を変えていく」のです。世界の平和の実現と、さまざまな課題の解決に向けて、皆さんがそれぞれに努力していただくことを期待して、私からの言葉とします。



式辞を述べる秋元理事長

#### 奨学生代表挨拶 京都大学大学院 康 アルム（韓国）

6年前、私は日本の優れた科学技術・知識を学ぶことや新しい出会いに夢を抱き、日本に留学して参りました。しかし、現実は一層厳しく、5年前に、母国、韓国の経済悪化を受け、父が勤務先を解雇されたため、仕送りがもらえなくなり、私は経済的な困難に直面し、悩む毎日でした。自分でアルバイトをして生活費や学費を工面しなければならない状況でし

た。3つのアルバイトを掛け持ちし、毎日休むことなく働きながら勉強をしていましたので、精神的にも肉体的にも負担がかかり、留学をやめることまで考えました。そのような中、竜の子奨学生として採用されたという知らせを受けたときには何よりもうれしく、とても感激しました。これからは再び夢を追うことができます。この場を借りて皆様に、心から深く感謝いたします。私たち竜の子奨学生は、財団関係者や寄付者の皆様からのご期待に応えられるよう、国と国の架け橋になって、世界平和の実現に向けて、社会に貢献していくことを、ここに誓うとともに、改めて皆様に感謝の気持ちを申し上げ、私からのご挨拶といたします。



奨学生を代表してスピーチする康アルムさん（京都大学大学院）



選考結果を報告する選考委員・根木 昭先生

## ● 祝 賀 会 ●

贈呈式に続き、祝賀会が開催されました。再び理事長からの心暖まるご挨拶を皮切りに、ご来賓からご祝辞をいただき、先輩の奨学生から歓迎の言葉をいただきました。さらに、西田孝之様のユニークなスピーチと乾杯の音頭で、オープニングが大変盛り上がりしました。その後は、おいしい食事をいただきながら、会場は歓談とふれあいと国際交流の場となり、竜の子奨学生たちは喜びとパワーをいっぱいいただきました。

### 歓迎のことば 筑波大学大学院 馬 耀（中国）

本日、竜の子奨学生となった皆さん、おめでとうございます。そして、秋元国際奨学財団へようこそ。秋元財団は経済的な支援だけではなく、私たちのために、定期的に交流会も開催していただきます。昨年の場合、富士登山、大相撲観戦、東京マラソンといった企画に参加することができました。その前年には、柔道体験、野球観戦もあったそうです。このような交流会は、日本に対する理解を深め、日本文化を身近に

感じるチャンスになることは言うまでもありませんが、竜の子奨学生どうしの絆を深める絶好のチャンスでもあります。

皆さん、これからは日本に留学した時の初心を忘れずに、勉強や研究に打ち込むと同時に、積極的に交流会に出席して、お互いの友情を深めてゆきましょう。そして、将来母国に帰ってからも、その友情をはぐくむことで、お互いに助け合ったり、切磋琢磨しあったりして、秋元理事長のおっしゃる世界平和の実現に繋がるよう努力していきましょう。



- ① 歓迎のことば 平成20年度竜の子奨学生代表 馬耀さん（筑波大学大学院）
- ② 祝辞 理事 小川進吾 様（財団法人産業医学研究財団理事長）
- ③ 祝辞と乾杯の音頭 社団法人全国野球振興会専務理事 西田孝之 様
- ④～⑦ 祝賀会を通じて仲良くなっていく奨学生たち
- ⑧ 締めのご挨拶 監事 伊礼勇吉 様（弁護士）

（担当：平成21年度竜の子奨学生 東京芸術大学大学院 班 文林）



## 第10回交流会レポート

平成21年7月4日～5日、竜の子奨学生の第10回交流会が開催されました。アジア諸国6カ国の50名の奨学生と、秋元理事長をはじめとする財団関係者、寄付者の皆さまの60人という大人数で、6班に分かれて京都の素晴らしい文化遺産を満喫しました。今回の京都研修旅行では、京都在住の奨学生が日ごろ勉強している「立命館大学」と「京都大学」を訪問するという企画もありました。大学関係者の方々が暖かく迎えてくださって、身も心も温まる交流会となりました。

今年は何と京都という最も日本らしくて、歴史のある街で研修旅行が行われました。全国の50人の竜の子奨学生が指定された日時に集まることはものすごく難しいことだと思いました。しかし、事務局の廣田さんの緻密な計画のおかげでみんなが無事に京都駅に集合することができました。その京都駅でわれわれを歓迎してくれたのは、京都在住の竜の子奨学生の皆さんでした。彼らは旅行の前日まで休む暇もなく現地での行事を企画しただけでなく、旅行中の案内役としても活躍してくれました。彼らの話はこの後に紹介しますので、必ず読んでください！

京都駅で集合してみんなが2台のバスに乗るところから研修旅行は始まりました。最初に向かったのは立命館大学です。会場入口では大学関係者の方々に迎えていただき、交流会会場で待っていたのは、豪華なお弁当！でした。会に先立ち、立命館大学副総長の本間政雄先生と立命館アジア太平洋大学長のモンテ・カセム先生から歓迎の言葉をいただきました。また立命館大学の学生によって三味線の演奏も行われました。次に訪れた場所は立命館大学国際平和ミュージアムでした。こちらではボランティアの方々から展示物に関する説明を聞きながら国際平和について考えることができました。



立命館アジア太平洋大学のモンテ・カセム学長の歓迎のご挨拶

次に訪れたのは、1日目の一番の目玉である鹿苑寺（通称金閣寺）で、大変素晴らしい建物でした。金閣寺の金閣舍利殿が最もよく眺められる場所ではみんながはしゃぎながら金色に輝く舍利殿を背景に写真を撮っていました。今回の旅行

で最も人気のあった写真スポットでした。記念写真のあとは金閣寺の園内の庭園や本堂などの建物を観覧し、次の場所である龍安寺へと向かいました。方丈庭園といわれる「龍安寺の石庭」を観覧した後は、寺の南側にある鏡容池の周囲をおしゃべりしながら散歩するグループをたくさん見かけました。



金閣寺の金閣舍利殿を背景に～

そして次に訪れたのは嵐山です。美しい山と川がある嵐山は有名な観光地でありながらまさにデートスポット。ここで私たちは、寄付者の皆さまのおかげで人力車に乗ることができました。その時まで人力車に乗ったことのある奨学生はいなかったようで、なかなか出来ない貴重な思い出になりました。この場を借りて御礼申し上げます。



人力車に乗ってピース（＾＾）

観光が終わってからは、リーガロイヤルホテル京都へ向かいました。今回の懇親会会場兼宿泊先です。ここでもまた豪華な料理とともに京都の竜の子奨学生により企画された様々なイベントが待っていました。理事長のスピーチや小谷先生の乾杯で懇親会が始まりました。最も盛り上がったイベントは何と言っても新入奨学生の自己紹介でした。みんな歌や芸がうまかったです。そして特別ゲストとして立命館大学の張さんの奥さんや娘さんにはピアノの演奏や歌を披露していただきました。張さんの奥さんは音楽を専攻していたそうで、大変美しい歌声でした。交流会の後は京都の夜の散策が待っていました。八坂神社からスタートして、祇園や先斗町界限を一時間ほど歩きながら夜の京都を楽しみました。ホテルに戻ってからは、有志で2次会が行われました。最後までいた人が寝たのは3時過ぎだったとか。部屋を提供してくれた羅さんとユニアルさん、どうもありがとう。



張沖さん（立命館大学大学院）と娘の張恵さん



夜の散策

2日目は前夜遅くまで起きていたにも関わらず、朝早くから元気よく行動開始です。まずは京都の東側にある慈照寺（通称銀閣寺）へ向かいました。金閣寺に比べられるほど大

変素晴らしい建物ですが、今回は補修のため半分ほど解体されていて、建物の全貌を観覧することはできませんでした。しかし、境内は美しい日本庭園であったためみんな色々な場所で写真を撮りながら境内を堪能していたようです。銀閣寺からは、かつて哲学者・西田幾多郎が散策しながら思索にふけたといわれる「哲学の道」を歩きました。

次に訪れたのは、京都大学です。「カンフォーラ」というレストランで昼食会が行われました。留学生課の角倉様がゲストで参加し、京大名物「総長カレー」や京大・早大・宝酒造が共同開発したビールを堪能しました。理事長は総長カレーが大変気に入ったようで土産として沢山購入されました。昼食会後は図書館や時計台を見学しました。



京都大学の図書館での理事長と奨学生たち

最後に訪れたのは、京都で最も人気のある観光スポットである清水寺です。こちらも古都京都の文化財のひとつとしてユネスコ世界遺産に登録されています。「清水の舞台から飛



清水の舞台で喜びのジャンプ

び降りるつもりで」と形容される「清水の舞台」をはじめ、縁結び神社や願いことを叶えてもらえる音羽の滝の水を飲みながら境内を楽しむことができました。また最後の訪問先であったため、近くにあるお土産屋さんで各自の知人のお土産を買う人も多かったです。

最後は初日に集合した京都駅で解散をしました。二日間お互いに親しくなったため別れも辛かったようですが、次の交流会での再会を約束しながら全国各地へと飛び立ちました。次も楽しい交流会が待っています。

## 京都研修旅行の企画を担当してくれた準備委員からのメッセージを紹介します。

第10回交流会の研修旅行は、遠いところから皆さんが京都に来てくださるということで、大変嬉しく思いました。京都在住のわれわれ5人の奨学生は、今回の交流会がただの観光旅行で終わるのではなく、日ごろ私たちが生活している京都の素晴らしさを皆さんに紹介したいという気持ちで、交流会の企画を担当することになりました。私たちはお互いに何回も電話で会議をしたり、打ち合わせをしながら着々と準備を進めました。二日間のスケジュールから夜の宴会、食事のメニューまで細かいことについての準備もたくさんあって、交流会を企画するのは大変でした。交流会の前日は夜遅くまで5人で仕事を分担して作業を行い、宴会の歌を練習しながら心を込めて横物を手作りしたのは未だに記憶に新しいところです。しかし、今回の企画を通じて私たちは力を合わせ、お互いに相談し合いながら交流を図り、友情が厚くなりました。

研修旅行のスケジュールが結構ハードだったため、皆さんも大変だったと思います。色々な面で反省すべきところも多々ありますが、私たちにとっては、交流会の企画を担当することによってたくさんのことを学び、常務理事廣田さんのお仕事の大変さが分かるようになりました。第10回交流会の準備委員として、この場を借りて皆さんに伝えたいことがいくつかあります。一つ感じたことは、もっと交流会のチャンスを大事にすべきだと思います。たった二日間の交流会は短く感じられますが、交流会の何ヶ月も前から計画を立てたり、下見や打ち合わせ、一人ひとりとメールでやり取りをするなど、細かいところまで配慮が払われていて、本当に大変な作業です。私たち奨学生はもっと財団に感謝の気持ちを持って、積極的に交流会に参加すべきではないでしょうか。また、今回の旅行では班長として務めました。一人ひとりが時間を守ることが集団で移動する時に本当に大事であることを痛切に感じました。基本的なルールを守る等の細かい心

遣いが、財団にとってとても助かると思いました。

今回の交流会では皆さんと京都を観光しながら交流ができて、とても楽しく充実した二日間でした。今回の旅行の企画と実行にあたって緊張はもちろん、不安な気持ちもありましたが、交流会が無事に終わり、京都に来られた財団関係者の方々と奨学生たちにも喜んで頂いたようで、私たちも何よりも嬉しく思います。奨学生の皆さんから「お疲れ様!」、「ありがとう、とても楽しかった!」などの温かいメッセージをいただいて、とても嬉しく安心しました。ご協力をいただいた財団関係者の方々、奨学生の皆さん、そして的確なご指導をくださった廣田さんに深く感謝します。本当にありがとうございました! 次回の交流会で皆さんと会えるのを楽しみにしています!



京都在住の5名の竜の子奨学生が京都駅でお出迎え

左から：曹洋さん（京都大学大学院）、康アルムさん（京都大学大学院）、張冲さん（立命館大学大学院）、趙蘭英さん（京都大学大学院）、関穎さん（立命館大学大学院）

（担当：平成21年度竜の子奨学生 東京大学大学院 宋 昌錫・筑波大学大学院 楊 高郎）



## Special Report —サマーミッション—

### ● 東インドネシアでのボランティア活動レポート ●

3年前の夏、私は一生忘れられない経験をしました。それは、8月2日から19日にかけて参加した、インドネシアでのサマーミッションのことです。サマーミッションとはキリスト教団体が主催するボランティア活動で、離島の貧しい人々を対象に、薬や食べ物、服などを寄付したり、同行した医師による無料医療の提供を行うプログラムです。



○印の箇所が、サマーミッションの訪問地

過去のサマーミッションの活動記録が収められたDVDを見て、母国にも貧しい暮らしをしている人がいることを知り、彼らのために何かがしたいと、プログラム参加を決意しました。参加者の多くはアメリカ在住のインドネシア人で、私を含めほとんどが学生でしたが、一人ひとりがお金を出し合いスポンサーとなりました。

訪問したのは、アンボン島、セラム島、クパン市、アタンブア市で、移動には飛行機で3時間、バスで9時間かかる地域もあり、一日移動だけで終わる日もありました。持っている荷物は約4キロと決められていたので、着替えはシャツ2枚とズボン2本、そして下着だけ。毎日汚れた服を洗っては干し、何とか耐えました。また、その他の訪問地を含め、我慢を必要とすることは多々ありました。現地での食事は口に合いませんでしたし、もちろんシャワー也没有せん。現地の人たちは川で食器を洗い、体を洗い、用を足します。その同じ川で私たちも体を洗いました。



川は、現地の人たちの大切な生活の場



治療を受けるために、大勢の人がクリニックに並び

が集まっていました。失礼ですが、彼らには独特のにおいがありました。でも、それに気を留めることなく、彼らが元気になるようお祈りをしました。

特に思い出深い活動の一つには夜のコンサートがあります。楽器や385キロのスピーカー、4つのLCDプロジェクター、パソコンやミキサーなど、総重量約1トンの荷物を皆で協力してアメリカから運びました。会場は広いグラウンドで、集まったのは約1万5千人。病気を患っている人ばかりです。しかし、みんな力を振り絞って賛美歌を歌い、子どもの頃から歌が大好きな私も、彼らと心をつなげて歌いました。



思い出に残った、素晴らしい夜のコンサート

厳しくて苦しい2週間でしたが、この経験を通して世界中にたくさん悩んでいる人や恵まれない人々がいることを知りました。彼らの悩みを体感し、彼らが心身ともに癒される姿を見たことで、これからも彼らの力になりたいと思うようになり、自分のことだけではなく、周囲の人々のことも考えなくてはならないことを学びました。

私は今、日本で勉強していますが、このミッションの経験を生かし、学校の勉強だけではなくボランティア活動などにも参加して、人の役に立てるよう努力していきたいと思います。竜の子の奨学生の皆さんも人の役に立てるよう、ボランティア活動に参加してみませんか？

(担当：平成21年度竜の子奨学生 東海大学 ユニアル プラスタウ)



## 平成21年度 竜の子奨学生・今回は私にとって一番大切なことをご紹介します。

竜の子奨学生のみなさん、贈呈式・祝賀会、京都研修旅行を通じて、他の奨学生と仲よくなりましたか？新しい竜の子奨学生については今まで将来の夢を紹介してきましたが、今回は夢を叶えるため日々努力している中での自分にとって一番大切なことをご紹介します。財団関係者や寄付者の皆様には竜の子奨学生が心の中で大切にしていることを読んでいただき、理解していただけたら嬉しいです。これからも、竜の子奨学生をよろしくお願いします。



**姜 潤** (キョウ・ジュン)  
中国 哈尔滨市  
北海道大学  
修士課程2年  
法学研究科 法学政治学専攻

「家族に対する責任感」です。いつも応援してくれる・いつも温かみを感じさせる家族を持っているのは何より幸せだと思います。両親がだんだん年をとっていきますので、ひとりっ子の私としては、これからも、家族の幸せのために一生懸命に頑張っていきたいと思っています。



**羅 宏勝** (ラ・ヒロカツ)  
中国 広西省  
慶應義塾大学 修士課程2年  
システムデザイン・マネジメント研究科  
システムデザイン・マネジメント専攻

「自信」です。私の自信とは、自分を受け入れること、自分を信じることに、自分に誇りを持つことです。進歩は自分を認識し、自分を受け入れてからスタートです。そして、努力すれば自分が必ずできると信じて、成功に導くことができます。誇りを持つと、どんな困難に遭遇しようと、乗り越える勇気が生まれてきます。



**ANDRY SETIAWAN** (アンドリー・セティアワン)  
インドネシア ジャワティムール州  
群馬大学  
博士前期課程1年  
工学研究科 情報工学専攻

「学ぼうとしている姿勢」です。簡単そうに見えますが、難しいです。プライドや今まで学んできたのを捨てることもあるかもしれません。しかし、学ぼうとしている人は無限に成長するのだと思いますので、「学ぼうとしている姿勢」を大切に、私はそういう人を目指しています。



**林 熙龍** (リン・キリュウ)  
中国 福清市  
電気通信大学  
電気通信学部2年  
情報工学科

「親に恩返しすること」です。私たちは親から生活できる環境と物事を知らない時から社会に貢献できる人間に育つまで数えられないほどの助けを貰っています。その偉大な愛は親が亡くなるまで、永遠に存在し、亡くなってからも私たちを支えて行きます。



**楊 高郎** (ヤン・ソルラン)  
韓国 閔慶市  
筑波大学  
博士課程(5年一貫制)4年  
人文社会科学研究科 文芸・言語専攻

「家族」です。一緒に暮らしていた時は、家族が私の傍にいてくれる大切さが分かりませんでした。しかし、4年間遠く離れて住むようになって、自分の誕生日とかお正月を一人で過ごしている時、国にいる家族がとても恋しくなります。



**YUNIAR PRASTAWA** (ユニアル・プラスタワ)  
インドネシア ジャカルタ市  
東海大学  
政治経済学部2年  
経営学科

「今日をギフトだと思って大切に過ごすこと」です。一日24時間、全ての人に平等に与えられていますが、それを有効に使えるかどうかで人生において達成できることが変わってきます。今日起きたことは必ず未来に影響すると思い、豊かな未来を創るための今日という日を大事にしています。



**岳 岡** (ガク・オカ)  
中国 上海市  
亜細亜大学 博士前期課程1年  
アジア・国際経営戦略研究科  
アジア・国際経営戦略専攻

「健康」です。健康は夢を叶えるためには欠かせない大切な要素の1つです。4・5年前、私の知人は白血病で亡くなりました。夢を持っていた彼は一生懸命に努力していましたが、健康管理をしっかりしていなかった為に……。健康は何よりも大切だと思います。皆さんも健康管理を大切しながら頑張ってください。



**孫 敏華** (ソン・ピンカ)  
中国 天津市  
東京大学  
博士課程(4年一貫制)2年  
医学系研究科 病因・病理学専攻

「より良い研究成果を出すこと」です。より高いレベルの論文を発表することは私の留学の目的の一つでもありますし、良い論文がないと、いい就職ができないし、いい就職ができないと両親に良い生活を提供するのが難しいからです。日本への留学チャンスを大事にしたいです。



**李 昌昱** (イ・チャンウク)  
韓国 ソウル市  
慶應義塾大学  
総合政策学部2年

「ビジョンを持つこと」です。その理由は、ビジョンを持つということは自分がビジョンを実現するために何をすべきかについて自分自身に問い続けることでビジョンの実現を目標として苦難などに遭った時でも揺れることなく努力し続けることが可能になるからです。



**宋 昌錫** (ソン・チャンソク)  
韓国 龍仁市  
東京大学  
博士後期課程3年  
農学生命科学研究科 生物材料科学専攻

「ものごとを楽しく考えること」です。多くのものごとは自分の気持ちによって左右されることもあります。それを楽しく判断することによって、より楽でスムーズなものごとを進めることができれば、何もかもストレスをためずに楽しくできると考えています。





**崔 ミン** (チェ・ミン)  
韓国 富川市  
東京外国語大学  
外国語学部2年  
日本語学科

「自分の夢を果たすこと」です。なぜならば、自分の夢を果たすために日本に来ていて、夢は自分にとってとても大切なことであるからです。そして、その夢を果たすために、初心を忘れずに、まっすぐに前へと進む力が必要だと思います。本当に自分の夢を頑張って果たしたいと思います。



**崔 文賢** (チェ・ムンヒョン)  
韓国 大邱広域市  
東京外国語大学  
博士前期課程2年  
地域文化研究科 言語文化専攻

「使命」です。使命とは、ことば通り「命を使う」ということです。私は誰であって、何のためにここにいるのか。その目的をはっきりして人生を歩んで行くことが私にとっては一番大切なことです。人々は自分が大切に思っていることに時間やお金を使います。今皆さんはどこに自分の時間やお金をかけていますか？



**樂 天堯** (ラン・テンギョウ)  
中国 天津市  
東京海洋大学  
博士前期課程2年  
海洋科学技術研究科 海洋生命科学専攻

「友情」です。友達は私と楽しい、苦しい、悲しいことを共有できます。人間は一人きりで存在できる生き物じゃないから、親友と共に人生の一ページを色づけています。また、友情は人生に失えないものの一つです。本当に信頼できる友達ができることは一生の財産です。



**班 文林** (ハン・ブンリン)  
中国 呼和浩特市  
東京芸術大学  
博士後期課程2年  
音楽研究科 音楽文化学・音楽音響創造専攻

「愛」です。私は生まれてから、親に大切に育てられ、暖かい家、毎日のお食事や、お勉強など、すべて親が日々の努力をした故に得られた生活です。大きくなった私は外国へ行き、困った時はいつも誰かに助けられ、励まされています。これらの「愛」は、私にとって一番大切で、その形と心を覚え、学ばべきだと思います。



**李 ジョンウン** (イ・ジョンウン)  
韓国 ソウル市  
東京芸術大学  
博士後期課程3年  
美術研究科 漆芸専攻

「内面の声に耳を向けること」です。言い換えれば「素直になれるように努力すること」です。途方にくれたときや些細なことで悩んでしまうとき、より客観的に自分自身を見つめる方法として、まず自分を知ることが重要だと思います。



**金 恩敬** (キム・ウンギョン)  
韓国 釜山市  
東京工業大学  
修士課程2年  
総合理工学研究科 メカノマイクロ工学専攻

「知識」です。私は新しいことについて知ったとき、楽しさを感じられます。また、大変なことに直面したときには、それまで私の習得してきた知識が、私を助けてくれます。知識は壊れたり無くなったるものではないので、忘れない限り、ずっと自分のものです。



**依達也提 再东** (イーダヤット・ザイドン)  
中国 庫爾勒市  
東京電機大学  
博士後期課程3年  
先端科学技術研究科 情報通信メディア工学専攻

「厳しい世の中で、夢を持って頑張っていくこと」です。大きな夢を持ち、その夢を実現するためにいつも努力していけば、どんな厳しい環境でも、どんな困難にぶつかっても、すべての苦難を乗り越え、明るくて美しい未来を迎えることができると信じています。



**劉 栄** (リウ・エイ)  
中国 福州市  
日本大学  
博士前期課程1年  
芸術学研究科 造形芸術専攻

「親を大切にすること」です。親は私の喜びや悲しみを自分の喜びや悲しみとし、私も親に対して同じ心の営みをもつことで、自分の人間性の核が形成されるのです。夫婦や親子の関係こそ、人間教育の根っこに位置付けられるものだといえます。



**黄 艶** (コウ・エン)  
中国 瀋陽市  
日本大学  
博士前期課程2年  
理工学研究科 物質応用化学専攻

「人」です。正直聞かれる前に深く考えたことはありませんでした。日本にきて「人は一人で生きているのではなく、多くの人々に支えられて生きているのだ」ということを学びました。来年の春には学生から社会人になります。今度は自分も、人を支える一人として役に立ちたいと思います。



**金 智媛** (キム・ジウォン)  
韓国 ソウル市  
一橋大学  
修士課程2年  
言語社会研究科 日本文化論専攻

「自分を信頼し自信を持つこと」です。同じ行動一つをとっても、自信を持って行動するかしないかによって、結果は大きく変わってくるでしょう。自信を持つことで、相手を安心させるだけでなく、信頼関係を築くこともできると思います。日常生活のほんの些細な事であっても自信を持って行動するように心がけています。



**ヌルメット 依克山** (ヌルメット・イキサン)  
中国 烏魯木齊市  
明治大学  
政治経済学部3年  
経済学科

「克己心」です。「人は己に克つを以て成り、自ら愛するを以て敗れるぞ」とは西郷隆盛の言葉です。人は何かを成し遂げると自分を磨き高めることを忘れてしまう弱い存在です。簡単ではありませんが、常に自分の力はまだまだであるという自覚と、弱い自分に打ち勝つ熱意をこれからも大切に行きたいです。



**周 思思** (シュウ・シシ)  
中国 江西省  
明治大学  
博士前期課程2年  
商学研究科 金融・保険・証券専攻

「家族」です。私は普通の中国人のように、家族はなによりも大切な存在だと思います。しかし、日本の友人にこの質問をしてみたところ、「仕事」だと答えてくれました。仕事は人としてこの世に立つ上にはもちろん欠かせないものですが、この仕事も結局家族をより幸せにしたいという思いがあるからこそ、頑張れるのだと思います。





## 奨学生からのメッセージ



**張 允楨** (チャン・ユンジョン)

韓国 木浦市  
立教大学  
博士前期課程2年  
コミュニティ福祉学専攻

「人との縁」です。すなわち「出会い」であります。世の中のできことは人との出会いから始まり、人間はその出会いによって成長していくと思っているからです。現在、厳しい留学生活を支えてくれるのも、出会った人々の応援だとしみじみに感じる時が多いです。その出会いと絆は私にとって、大きな財産でもあります。



**陳 悦** (チン・エツ)

中国 鎮江市  
名古屋大学  
博士前期課程1年  
国際言語文化研究科 国際多元文化専攻

「善く生きること」です。「一番大切なことは単に生きることそのことではなくて、善く生きることである。」ギリシャの哲学者ソクラテスがそう言いました。誰にも影響されずに、自分が望む生き方で充実した生活を送ることが人生の甲斐と幸せにつながると思います。



**文 銀実** (ブン・ギンジツ)

中国 山東省  
名古屋大学  
博士後期課程2年  
国際開発研究科 国際コミュニケーション専攻

「現在」です。「過去」のことは取り戻せなく、「将来」のことは誰も予測できません。自分に与えられた「現在」のすべてに感謝し、忠実に「現在」やるべきことを遂行していくことです。「現在」を生き抜けば、明るい「将来」はきっと少しずつ見えてくると信じているからです。



**康 アルム** (カン・アルム)

韓国 全北郡山市  
京都大学  
修士課程2年生  
理学研究科 地球惑星科学専攻

「挑戦する心」です。私はいつも今の自分・生活に満足せず、新しいことに挑戦しています。挑戦というモットーは常に目標を持つこととなり、自分に頑張れる力を与えてくれます。日本に留学することができたのも、また竜の子奨学生に選ばれて勉強を続けることができたのも挑戦する心を持ったからだだと思います。



**趙 蘭英** (チョウ・ランエイ)

中国 長春市  
京都大学  
博士課程(4年一貫制)4年生  
医学研究科 医科学専攻

「家族と友達」です。お母さんが病に倒れ、動揺した気持ちの中、ある言葉で悟りを開き、台湾音楽家羅大佑は自分の〈老三原則〉を語りました。〈老伴〉＝老後と一緒に歩むパートナー、〈老友〉＝老後も連絡したい友達、〈老本〉＝老後に使うお金です。その通りで人は根本であります。



**関 穎** (グワン・イン)

中国 北京市  
立命館大学  
博士後期課程2年生  
国際関係研究科 国際関係学専攻

「約束」です。理由は非常に単純で、子供の時に私はおばさんの家で育てられました。妹のように父母と一緒に暮らすことが夢でしたが、父母の「すぐ出迎えにいく」という約束が一回も守られませんでした。その時の体験かもしれませんが、私は「できない約束をしない」と心に誓いました。



**張 愚** (チョウ・グ)

中国 太原市  
九州大学  
修士課程2年  
人文科学府 言語・文学専攻

「他人とのコミュニケーション」です。コミュニケーションの定義である諸説の中で一つは自分の考えや、持つ知識を理論付けし、お互いに伝達しあう能力であります。また、我々のような個人の間だけでなく、今日の人間社会でも、諸問題の解決には「対話型のコミュニケーション能力」が求められています。



**韓 璐娟** (カン・ロウケン)

中国 牡丹江市  
九州大学  
修士課程2年  
法学府 民刑事法専攻

「家族と友達」です。一緒にいる時は最初の自分を忘れず、夢に向かって頑張りが続けます。家族は、木の根のような存在で、生まれてから愛という養分を送ってくれて、私の元気のもとになっています。友達は、喜びも悲しみも分かち合い、彼らと過ごした時間はいつでも宝物で大事にしたいです。



**崔 智雄** (チェ・ジウン)

韓国 釜山市  
立命館アジア太平洋大学  
アジア太平洋マネジメント学部3年生  
アジア太平洋マネジメント学科

「家族」です。私の力の源泉であり、くたびれて倒れた私をまた起こして立たせてくれます。韓国でいつも私のことを心配し、応援してくれる両親と兄さんが一番目の家族、そして今私が学業に専念するように支えてくれる秋元国際奨学財団も家族であります。家族皆に健康と幸せが永遠になるように望みます。



**GANBAATAR ENKHJARGAL**  
(ガンバータル・エンフジャールガル)

モンゴル ウランバートル市  
立命館アジア太平洋大学  
アジア太平洋マネジメント学部4年生  
アジア太平洋マネジメント学科

「愛」です。それは家族や友人への愛に限らず、人間への愛のことです。悪口を言わず、批判をせずに他人を素直に受け入れれば愛は自然に生まれます。愛は人生を幸福にするということを家族と友人が大切に教えてくれました。人生に転換を今から始め、笑顔と素直な心で生きたいです。

(担当：平成21年度竜の子奨学生 慶應義塾大学大学院 羅 宏勝  
平成21年度竜の子奨学生 日本大学大学院 黄 艶)



## 竜の子近況報告



2009年5月 代々木公園にて

平成19年度竜の子奨学生（財団卒業生）  
ヒュン タン ブーン  
**HUYNH THANH PHUONG**  
（ベトナム・ホーチミン市）

立命館アジア太平洋大学大学院  
経営管理研究科 修士課程卒業

### 「東京の生活」

私は4月に財団から卒業し、就職しました。同じ時に別府から離れ、上京しました。

奨学生時代の交流会で何回か東京に行ったことがありましたが、実際に東京で仕事をし、初めて都会での生活を実感しました。自分の別府の小さくて静かな町に比べたら、東京はずっと人が多くて、誘惑も増えて行き、でも逆に出会いも広がる場所ではないかと思います。いつでも交流会で皆さんと一緒に楽しんで、最後にも皆さんと一緒に暖かい卒業式を過ごしたのに、もうあれから5ヶ月が経ちました。自分の心には皆さんの笑顔がまだ沢山残っています。皆さんも相変わらずにお勉強と研究を頑張ってくださいね。

じゃ、いつかまた会いましょうね！



2009年夏 マザー牧場にて

平成19年度竜の子奨学生（財団卒業生）  
カク テンテン  
**郭 甜甜**（中国・瀋陽市）  
東京海洋大学 海洋科学部 4年

### 「健康を大切に」

大学4年生になり、卒業論文と大学院受験のため、憧れていた分野の研究室に入りました。しかし、実験をやるようになって、実験ってかなり肉体労働なんだと初めて実感しました。本当にいい体がないと、いくら夢が素晴らしくてもやっていけないという認識があり始めました。ということで、最近プールに通うようになりました。体力もつき、体ラックラックです！また、実験で帰宅が遅くても自分で料理をすることにしています。料理することで頭の気分をかえて、一方、自分の健康を自分でしっかり管理を！

充実に満ちた毎日を送っています。

（編集部注：郭 甜甜さんは、このたび東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科に合格し、来年4月から遺伝子応用医学の研究をすることになっています。）



2009年夏 タイにて

平成19年度竜の子奨学生（財団卒業生）  
コウ リュウ  
**向 龍**（中国・成都市）

群馬大学大学院  
工学研究科  
博士後期課程修了・工学博士

### 「タイの旅」

今年の夏、私はタイに行ってきました。4月の反政府デモの「後遺症」を心配しましたが、実際に行ったら、街がにぎやかで治安も落ち着いている感じでした。私は北から南へ、それぞれ異なる景色、偉大な歴史、美味しい料理を満喫しました。その中、最も感心したのは、タイの人の優しさでした。「一日一善」という仏教の教えを信じている社会のため、どこにいても困っているような私に「May I help you?」と暖かく言ってくれる人がたくさんいました。本当に「Khob Khun Ka」（ありがとう）。これから、私も身の回りから善い行いをしたいです。



2009年8月 ディズニーシーにて

平成19年度竜の子奨学生（財団卒業生）

チン ウンホウ  
**陳 雲芳**（中国・福建省）

東京外国語大学  
外国語学部 4年

## 「日本の文化」

東京の天気はだんだん秋めいてきましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？私は最近卒業論文のことや大学院受験のことで精一杯です。毎日勉強していて頭がおかしくなりそうな中で、「水上能の鑑賞いかない？」と友人に誘われて、息抜きでもいいじゃないかと思って、行きました。多摩文化センターで露天会場でしたが、本当に水の上で能の舞台が立てられていて、そして満月の日でしたので、清らかな水と満月の光景だけでもとても感動的でした。能のテキストがあったので、それを見ながらなんとなくわかったのが、面白かったし、とても勉強になりました。皆さんにも能や歌舞伎など日本伝統的な舞台芸術を見るのをお勧めします。とても勉強になりますよ。それでは皆さんこれからも元気いっぱい頑張ってください。



2009年7月 鎌倉にて

平成19年度竜の子奨学生

ゴ エンカ  
**呉 延花**（中国・延吉市）

東京大学大学院  
医学系研究科  
社会医学専攻 博士課程（4年一貫制）

## 「心のバランスを取るように」

今年4月から、私は博士課程の最終学年（4年生）になりました。今は博士論文のために全力を注いでいるところです。私の研究テーマはメンタルヘルスに関するもので、8月には、論文に役立つ情報を収集するために、指導教授とともに、調査対象である某市役所に見学に行ってきました。そして、最終学年ならではの日々緊張感のある研究から、気持ちを切り替えるため、夏休み中には友達と一緒に鎌倉の江ノ島に行ってきました。青くてきれいな海を見るとワクワク感と安らぎを感じ、すぐ元気をもらいました。せっかくですので、鎌倉の名所である鶴岡八幡宮や大仏で有名な高德院などあちこち回ってみました。一息が取れ、気分転換になったばかりではなく、日本の幕府時代の歴史や文化にも触れ合うことができました。これからも完成度の高い卒業論文を仕上げるために、更なる努力を重ねていきたいと思っています。



2009年4月 社内にて、普天王関と

平成19年度竜の子奨学生（財団卒業生）

ドァン ティエン ドウック  
**DOAN TIEN DUC**  
（ベトナム・ハタイ市）

東京工業大学大学院  
イノベーションマネジメント研究科  
専門職学位課程卒業

## 「インターネットの夢へ」

私は4月から社会人になり、サイバーエージェントという会社に勤めています。ベンチャーキャピタリストとして、日本とベトナムのインターネットサービスを提供しているベンチャー企業に支援する仕事をしております。支援の内容は資金だけではなく、会社のマネジメントや組織作り、サービスの提供の仕方などありとあらゆることを支援し、ベンチャー企業の経営者と一緒に会社を成長させるように頑張っております。日本とベトナムのインターネット業界を盛上げることから、将来は自分も経営者になりたいと思い、今は日々努力しております。

（担当：平成21年度竜の子奨学生 亜細亜大学大学院 岳 岡）



## 寄付者の紹介

前号に引き続き、普段なかなか交流の機会が少ない寄付者の皆様を、竜の子奨学生に知ってもらうための企画です。今号では、小林英一様にお話を伺いました。



こばやし えいいち  
**小林 英一 様**

大建ビルテクノ株式会社 代表取締役

長野県小諸市出身。学生時代は柔道・レスリングなどの格闘技に熱中したが、現在はゴルフに夢中。

質問 財団にご寄付をいただくことになったきっかけを教えてください。

秋元理事長の考え方、生き方、男気に惚れたからです。ただし、私は決して同性愛者ではありません。

質問 交流会にご参加いただいて、ご感想をお聞かせ下さい。

竜の子奨学生の皆さんと話をしたところ、人生について前向きな考え方をしており、自分の進むべき道がはっきりしていることに感動しました。

質問 特に印象に残っている竜の子奨学生はいますか？ またその理由もお聞かせ下さい。

本年3月の財団卒業式で「インドネシアの子供たちにタダで勉強できる環境を作るために、インドネシアの文部科学省の大臣を目指します」とスピーチをした京都大学のユリアハティ・リサさん。そのスピーチを聞いて涙ぐんでいる秋元理事長の後ろ姿を見て、私も思わずもらい泣きしてしまいました。

質問 竜の子奨学生にどのようなことを期待したいですか。

自分の人生の目標を実現すると同時に、母国と日本の架け橋となって活躍していただきたい。

質問 最後に、竜の子奨学生へメッセージをひとこと

将来、学生時代を振り返るようなことがあったとき、数年間を過ごした日本での大学・大学院生活において、「あのときに秋元国際奨学財団との出会いがあったから、自分の夢を実現することができた」と言えるように、頑張ってください。

## 最初の評議員の選任について

平成20年12月1日より、公益法人制度改革関連3法が施行されましたが、これに伴い、当財団では「公益財団法人」への移行手続きを開始することとし、このたび「最初の評議員」の選任を行いました。

まず、平成21年8月5日開催の第7回理事会および第6回評議員会において、次の9名が、評議員選定委員会に推薦する評議員候補者とするについて、承認可決されました（五十音順・敬称略）。

|       |       |       |       |      |
|-------|-------|-------|-------|------|
| 相澤 英孝 | 井上 明俊 | 小笠原康正 | 大沢 啓二 | 塩井 勝 |
| 鈴木 博之 | 鳥飼 繁  | 森下 真一 | 山下 泰裕 |      |

続いて、この議決をもって、平成21年8月26日に、評議員選定委員会が開催されました。評議員選定委員は次の5名です（五十音順・敬称略）。

|             |                            |
|-------------|----------------------------|
| 櫻井しのぶ（外部委員） | 三重大学医学部看護学科・国際交流センター 教授    |
| 塩井 勝（評議員代表） | 税理士、新日本アーンストアンドヤング税理士法人 社員 |
| 中村 元彦（監事代表） | 公認会計士、中村公認会計士事務所 所長        |
| 水上 洋（外部委員）  | 弁護士、水上法律事務所                |
| 森本 兼曩（外部委員） | 大阪大学大学院医学系研究科 教授           |

委員会では、上記の評議員候補者一人ずつに対し、候補者の経歴、候補者とした理由および適任と判断した理由、当該法人および法人等との関係、兼職状況についての説明がなされ、審議が行われました。その結果、候補者9名全員を「最初の評議員」として選任することについて全員異議なく承認可決されました。



評議員選定委員会の様子

## 編集後記



第1回編集会議の様子

○委員長 東京大学大学院 <sup>ソン チャンソフ</sup> 宋 昌錫  
○何かを編集することや出版するなどのクリエイティブな仕事は以前から好きでしたが、学位論文を書かなければいけない時期でもあったため、会報第5号の編集委員の募集のメールを見て少し悩みました。でも来年卒業すると、このような仕事にはなかなか出会えないので手をあげることにしました。早いもので、もう3回目の編集会議が終わり出版を待っています。今回のチームはみんなやる気満々でいい人たちだったから、会議も記事の編集作業も楽しくする事ができました。良い思い出です。最後に会報第5号の編集に協力して頂いた「竜の子奨学生」の皆様、編集委員の皆様そして廣田さんに深く御礼を申し上げます。またもんじゃ焼の店に行きましょう。

○委員 東京芸術大学大学院 <sup>ハン ブンリン</sup> 班 文林  
○この編集委員会の参加を通して、改めて竜の子奨学生たちが高い素質をもつことに感銘しました。それは、文章力だけでなく、コミュニケーション能力や、異文化適応性、思いやりなど総合的な面から素晴らしいと感じます。お互いに助け合う心もち、じっくり、深く国際交流をし、私はそこから多くのことを学び、良い思い出ができました。その中で、一番良かったのは、一緒に頑張ってきたメンバーたちとサポートしてくれた財団関係者と良い関係を築くことができたことで、それこそ、金で買えない人生の宝物でしょう。

○委員 慶應義塾大学大学院 <sup>ラ ヒロカフ</sup> 羅 宏勝  
○編集委員は大変大変と思いましたが、実は楽しいことがいっぱいあります。  
○編集会議が終わったあと、編集委員の仲間達と一緒にもんじゃ焼き、お好み焼きを食べながら、笑い話で盛り上がりしました。  
○そして、奨学生との連絡も楽しみのひとつでした。私は「奨学生からのメッセージ私にとって一番大切なこと」を担当しました。多くの新奨学生に電話をかけました。電話が繋がると、いつも友達感覚で会話ができて、話を楽しむことができました。  
○編集委員の本当の楽しみは、あなたがなつてかわかりますよ！

○副委員長 日本大学大学院 <sup>コウ エン</sup> 黄 艶  
○会報「竜の子奨学生」第5号の編集を担当させていただきました。「奨学生からのメッセージ」と「近況報告」の担当者羅さん、岳さんと力を合わせて、作成を行いました。この二つの項目は竜の子奨学生を知っていただく大切な項目であり、よりよく作成するために、過去の内容を参考しつつ、プロの方のアドバイスを受けながら、知恵を絞りました。皆さんのご協力の元で、「奨学生からのメッセージ」と「近況報告」をスムーズに完成させることができました。今回の編集を通じて、改めて日本語の難しさと面白さを感じ、これからも勉強して行きたいと思います。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

○委員 筑波大学大学院 <sup>ヤン ソルラン</sup> 楊 高郎  
○廣田さんをはじめ、編集委員の皆さん、大変お疲れ様でした。そして、原稿作成にご協力してくださった奨学生の皆さん、本当にありがとうございました。皆さんのお陰で、「竜の子奨学生」第5号の会報編集が無事に終わることができました。1回目の編集会議では緊張していましたが、お互いに意見を話し合ううちにみんなで仲良くなることができて、とても楽しかったです。今回の会報編集は私にとって、とてもいい経験になりました。



第2回編集会議の様子

○委員 亜細亜大学大学院 <sup>ガウ オカ</sup> 岳 岡  
○今回、奨学生会報第5号の編集委員に選ばれ、大変嬉しいと思うと同時に、初めての編集に、不安や緊張及び責任感を強く感じました。より良い会報にするため、頑張ろうと心から決意しました。編集会議ではプロの方からのご指導を受け、皆でアイデアを出し合いながら互いに協力し無事会報が出来上がりました。  
○私にとって一番嬉しいことは、編集を通じて編集委員の皆さんと信頼関係を深めることができ、良い友達になれたことです。皆さんも積極的に参加してください！  
○最後にご協力して頂いた方々には心からお礼申し上げます。

○委員 東海大学 <sup>ユニアル プラスタウ</sup> ユニアル プラスタウ  
○私は、このたび会報「竜の子奨学生」第5号の編集委員会に参加させていただき、本当に貴重な経験と勉強になりました。スペシャルレポートコーナー「サマーミッション」を担当していますが、最初に原稿を書いたときは、原稿の構成や日本語の表現に不自然なところがあったので、編集委員会の皆さんから意見やアドバイスをたくさん頂きました。余りにもたくさん頂いたのでとても苦勞しましたが、3回ほど書き直して、ようやく自分でも納得できるような原稿が出来上がりました。皆さんありがとうございました。



編集会議後に食べた初めてのもんじゃ焼き



Akimoto Tatsunoko  
International Scholarship Foundation

財団法人 秋元国際奨学財団  
<http://www.tatsunoko.jp>